

四季	24節季(にじゅうしせつき)			72候(しちじゅうにこう)					
	名称・始まる日	いわれ	始まる日(頃)	順	名称	読み	意味		
春	初春	正月節 立春 りっしゅん 2月4日頃	春の初め。『暦便覧』には「春の気たつをもつてなり」と。この日から春になる	初候	2月4日	1	東風解凍	とうふう(はるかぜ)こおりをとく	東風が厚い氷を解かし始める
				次候	2月9日	2	黄鶯睨腕	おうこうけんかんす	ウグイスが山里で鳴き始める
				末候	2月14日	3	魚上氷	うおこおりをはいずる	割れた氷の間から魚が飛び出る
	正月中	雨水 うすい 2月19日頃	空から降るものが雪から雨に変わり、雪が溶け始めるころ。正月中。『暦便覧』には「陽気地上に発し、雪氷とけて雨水となればなり」と	初候	2月19日	4	土脉潤起	つちのしょううるおいおこる	雨が降って土が湿り気を含む
				次候	2月24日	5	霞始靄	かすみはじめてたなびく	霞がたなびき始める
				末候	3月1日	6	草木萌動	そうもくめばえいずる	草木が芽吹き始める
	仲春	二月節 啓蟄 けいちつ 3月6日頃	大地が暖まり冬眠をしていた虫が穴から出てくるころ。『暦便覧』には「陽気地中にうごき、ちぢまる虫、穴をひらき出ればなり」と	初候	3月6日	7	蟄虫啓戸	すごもりむしとをひらく	冬ごもりの虫が出てくる
				次候	3月11日	8	桃始笑	ももはじめてわらう(さく)	桃の花が咲き始める
				末候	3月16日	9	菜虫化蝶	なむしちょうとなる	青虫が羽化して紋白蝶になる
	二月中	春分 しゅんぶん 3月21日頃	太陽が春分点を通過した瞬間、すなわち太陽の視黄経が0度となった瞬間を春分と定義する『暦便覧』に「日天の中を行って昼夜等分の時なり」と	初候	3月21日	10	雀始巢	すずめはじめてすくう	雀が巣をかまえ始める
				次候	3月26日	11	桜始開	さくらはじめてひらく	桜の花が咲き始める
				末候	3月31日	12	雷乃発声	かみなりすなわちこえをはつす	遠くで雷の音がし始める
晩春	三月節 清明 せいめい 4月5日頃	万物がすがすがしく明るく美しいころ。『暦便覧』には「万物発して清浄明潔なれば、此芽は何の草としれるなり」と	初候	4月5日	13	玄鳥至	げんちよういたる(つばめきたる)	ツバメが南からやってくる	
			次候	4月10日	14	鴻雁北	こうがんきたす(かえる)	雁が北へ渡っていく	
			末候	4月15日	15	虹始見	にじはじめてあらわる	雨の後に虹が出始める	
三月中	穀雨 こくう 4月20日頃	穀雨とは、穀物の成長を助ける雨のことである。『暦便覧』には「春雨降りて百穀を生化すればなり」と	初候	4月20日	16	葭始生	あしはじめてしょうず	葦が芽を吹き始める	
			次候	4月25日	17	霜止出苗	しもやみてなえいずる	霜が終わり稲の苗が生長する	
			末候	4月30日	18	牡丹華	ぼたんはなさく	牡丹の花が咲く	
夏	初夏	四月節 立夏 りっか 5月6日頃	夏の気配が感じられるころ。『暦便覧』には「夏の立つがゆへなり」と。この日から夏となる。	初候	5月5日	19	蛙始鳴	かわずはじめてなく	蛙が鳴き始める
				次候	5月10日	20	蚯蚓出	きゆういん(みみず)いずる	ミミズが地上にはい出る
				末候	5月15日	21	竹笋生	たけのこしょうず	竹の子が生えてくる
	四月中	小満 しょうまん 5月21日	万物が次第に成長して、一定の大きさに達して来る頃。『暦便覧』には「万物盈満(えいまん)すれば草木枝葉繁る」と	初候	5月21日	22	蚕起食桑	かいこおきてくわをはむ	蚕が桑を盛んに食べ始める
				次候	5月26日	23	紅花榮	べにばなさかう	紅花が盛んに咲く
				末候	5月31日	24	麦秋至	ばくしゅう(むぎのとき)いたる	麦が熟し麦秋[ばくしゅう]となる
	五月中	芒種 ぼうしゅ 6月6日頃	芒(のぎ)を持った植物の種をまく頃。『暦便覧』には「芒(のぎ)ある穀類、稼種する時なり」と実際に、現在の種まきはこれよりも早い。	初候	6月6日	25	螳螂生	とうろう(かまきり)しょうず	カマキリが生まれ出る
				次候	6月11日	26	腐草為螢	ふそう(かれたるくさ)ほたるとなる	(腐った草の下から螢が生ずる)
				末候	6月16日	27	梅子黄	うめのみきなり	梅の実が黄ばんで熟す
	五月中	夏至 げし 6月21日頃	北半球では一年中で一番昼が長く夜が短い日。『暦便覧』には「陽熱至極(やうねつしごく)した、日の長きのいたりなるを以てなり」と	初候	6月21日	28	乃東枯	ないとう(なつかれくさ)かるる	夏枯草が枯れる
				次候	6月27日	29	菖蒲華	しょうぶ(あやめ)はなさく	アヤメの花が咲く
				末候	7月2日	30	半夏生	はんげしょうず	カラスビシャクが生える
六月中	小暑 しょうしょ 7月7日頃	梅雨明けが近づき、暑さが本格的になるころ。『暦便覧』には「大暑来れる前なればなり」と	初候	7月7日	31	温風至	おんふう(あつかぜ)いたる	あたたかい風が吹いてくる	
			次候	7月12日	32	蓮始開	はすはじめてひらく	蓮の花が開き始める	
			末候	7月17日	33	鷹乃学習	たかすなわちがくしゅうす(わざをならう)	鷹の幼鳥が飛ぶことを覚える	
六月中	大暑 たいしよ 7月23日頃	快晴が続き気温が上がり続けるころ。『暦便覧』には「暑氣いたりつまりたるゆえなればなり」と	初候	7月23日	34	桐始結花	きりはじめてはなをむすぶ	桐の実がなり始める	
			次候	7月29日	35	土潤溽暑	つちうるおてじょくしよす(むしあつし)	土がしめって蒸し暑くなる	
			末候	8月3日	36	大雨時行	たいうときどきおこなう(ふる)	時として大雨が降る	
秋	初秋	七月節 立秋 りっしゅう 8月7日頃	初めて秋の気配が表われてくることとされる。七月節。『暦便覧』では「初めて秋の気立つがゆゑなれば也」と	初候	8月7日	37	涼風至	りようふう(すずかぜ)いたる	涼しい風が立ち始める
				次候	8月13日	38	寒蟬鳴	ひぐらしなく	ヒグラシが鳴き始める
				末候	8月18日	39	蒙霧升降	もうむしよご(ふかきりまとう)	深い霧が立ち込める
	七月中	処暑 しよしよ 8月23日頃	暑さが峠を越えて後退し始めるころ。『暦便覧』では、「陽氣とどまりて、初めて退きやまむとすれば也」と	初候	8月23日	40	綿村開	めんぶ(わたのはなしべ)ひらく	綿を包む罫[がく]が開く
				次候	8月28日	41	天地始肅	てんちはじめてしゆくす(さむし)	ようやく暑さが鎮まる
				末候	9月2日	42	禾乃登	こくものすなわちみのる	稲が実る
	八月中	白露 はくろ 9月8日頃	大気が冷えて来て、露がでか始めるころ。『暦便覧』では、「陰気やうやく重りて、露にこりて白色となれば也」と	初候	9月8日	43	草露白	そうろう(くさのつゆ)しろし	草に降りた露が白く光る
				次候	9月13日	44	鶺鴒鳴	せきれいなく	せきれいが鳴き始める
				末候	9月18日	45	玄鳥去	げんちよう(つばめ)さる	ツバメが南へ帰っていく
	九月中	秋分 しゅうぶん 9月23日頃	昼夜の長さがほぼ同じになる。『暦便覧』では「陰陽の中分なれば也」と説明している。しかし、実際には、昼の方が夜よりも少し長い	初候	9月23日	46	雷乃収声	かみなりすなわちこえをおさむ	雷が鳴り響かなくなる
				次候	9月28日	47	蟄虫坏戸	ちつちゅうこをはいず(むしかくてとをふさぐ)	虫が土中に掘った穴をふさぐ
				末候	10月3日	48	水始涸	みずはじめてかるる	水が凍り始める
九月中	寒露 かんろ 10月8日頃	露が冷気によって凍りそうになるころ。『暦便覧』では、「陰寒の氣に合つて露結び凝らんとすれば也」と	初候	10月8日	49	鴻雁来	こうがんきたる	雁が飛来し始める	
			次候	10月13日	50	菊花開	きくのはなひらく	菊の花が咲く	
			末候	10月18日	51	蟋蟀在戸	しつそく(きりぎりす)とにあり	キリギリスが戸にあって鳴く	
九月中	霜降 そうこう 10月23日頃	露が冷気によって霜となって降り始めるころ。『暦便覧』では、「露が陰気に結ばれて霜となりて降るゆゑ也」と	初候	10月23日	52	霜始降	しもはじめてふる	霜が降り始める	
			次候	10月28日	53	雲時施	こさめときどきふる	小雨がしとしと降る	
			末候	11月2日	54	楓薦黄	ふうかつきなり(もみじつたきばむ)	もみじや薦が黄葉する	
冬	初冬	十月節 立冬 りつとう 11月7日頃	初めて冬の気配が現われてくる日。『暦便覧』では、「冬の気立ち始めて、いよいよ冷ゆれば也」と	初候	11月7日	55	山茶始開	さんちゃ(つばき)はじめてひらく	つばきの花が咲き始める
				次候	11月12日	56	地始凍	ちはじめてこおる	大地が凍り始める
				末候	11月17日	57	金盞香	きんせんこうばし(きんせんかさく)	水仙の花が咲く
	十月中	小雪 しょうせつ 11月22日頃	僅かながら雪が降り始めるころ。『暦便覧』では、「冷ゆるが故に雨も雪とてくだるが故也」と	初候	11月22日	58	虹蔵不見	にじかくいれてみえず	虹を見かけなくなる
				次候	11月27日	59	朔風払葉	きたかぜこのをははらう	北風が木の葉を払いのける
				末候	12月2日	60	橘始黄	たちばなはじめてきばむ	橘の葉が黄葉し始める
	十一月中	大雪 たいせつ 12月7日頃	雪が激しく降り始めるころ。『暦便覧』では、「雪いよいよ降り重ねる折からなれば也」と	初候	12月7日	61	閉塞成冬	へいそくて(そらさむく)ふゆとなる	天地の気が塞がって冬となる
				次候	12月12日	62	熊蟄穴	くまあなにもこもる	熊が冬眠のために穴に隠れる
				末候	12月16日	63	鮭魚群	けつぎよ(さけのうお)むらがる	鮭が群がり川を上る
	十一月中	冬至 とうじ 12月22日頃	北半球では一年の間で昼が最も短く夜が最も長くなる日。『暦便覧』では「日南の限りを行って、日の短きの至りなれば也」と	初候	12月22日	64	乃東生	なつかれくさしょうず	夏枯草が芽を出す
				次候	12月27日	65	麋角解	びかくげす(さわしかつのおつる)	大鹿が角を落とす
				末候	1月1日	66	雪下出麦	せつかむぎをいだす(ゆきわたりてむぎのびる)	雪の下で麦が芽を出す
十二月中	小寒 しょうかん 1月5日頃	寒さが最も厳しくなる前の時期。『暦便覧』では、「冬至より一陽起る故に陰気に逆らふ故、益々冷える也」と。この日を寒の入り。	初候	1月5日	67	芹乃榮	せりすなわちさかう	芹がよく生育する	
			次候	1月10日	68	水泉動	すいせんうごく(みずあたたかきふくむ)	地中で凍った泉が動き始める	
			末候	1月15日	69	雉始雊	きじはじめてなく	雄の雉が鳴き始める	
十二月中	大寒 だいかん 1月20日頃	寒さが最も厳しくなるころ。『暦便覧』では、「冷ゆることの至りて甚だしきときなれば也」と	初候	1月20日	70	款冬華	かんとうはなさく(ふきのはなさく)	ふきのとうがつぼみを出す	
			次候	1月25日	71	水沢腹堅	すいたくふけん(さわみずこおりつめる)	沢に氷が厚く張りつめる	
			末候	1月30日	72	鶏始乳	にわとりはじめてとやにつく	鶏が卵を産み始める	

※24節季の日付は、年によって微妙にずれ、記載の月日を中心に前後一日にほとんどがおります。また、期間として考える場合は、その日から次の節の前日までとなります。

※72候の日付は、その日の前後頃から始まって、次の候の前日までです。

※72候は、いろいろなパターンがありますから、明治の初め頃使われていたものになりました。読みについては、少し古いものと違う場合には明治期のものを()内に表記しました。

※旧暦の月は、月の満ち欠けで一ヶ月を設定します。その一ヶ月の間に24節季の中がある月になります。その1ヶ月に中ない場合は、閏月となります。